

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研究テーマ	通いの場における口腔機能向上を目指した介護予防推進事業実習教育プログラムの検証 —地域包括ケアシステムに生きる歯科衛生士の育成—				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短期大学部・講師	氏名	山本 智美
	研究協力者	所属・職名	静岡県歯科衛生士会	氏名	森野 智子
		所属・職名	広島大学大学院医系科学研究科歯周病態学研究室・助教	氏名	長谷 由紀子
		所属・職名	短期大学部・助教	氏名	中村 和美
		所属・職名	神奈川歯科大学大学院歯学研究科小児歯科学分野・教授	氏名	仲井 雪絵
	発 表 者	所属・職名	短期大学部・講師	氏名	山本 智美

講演題目
通いの場における口腔機能向上を目指した介護予防推進事業実習教育プログラムの検証
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】本学科では地域住民主体の運営スタッフ（ボランティア）が運営している「通いの場」で、歯科衛生士が地域包括ケアシステムの一員として担う役割を理解し、社会が期待する歯科衛生士としての基礎的な力を習得するために介護予防推進事業実習を令和5年度より導入した。そこで本研究では、令和6年度「通いの場」の運営スタッフによる介護予防推進事業実習に関するアンケート調査を実施し、運営スタッフによる他者評価と学生の自己評価との比較等により実習課題や改善点等を分析した。今年度は学生の実習レポートと運営スタッフの自由記述を量的・質的に分析し、歯科衛生士教育としての学修効果を検証することである（静岡県立大学研究倫理審査委員会 承認番号 6-18）。 【成果及び今後の展望】介護予防推進事業実習終了後、当該科目の成績評価が終了した後、本研究への参加に同意した令和6年度歯科衛生学科2年生47名の実習レポート（「自己課題」、「自己課題解決に必要な知識・技術・態度」）を対象に、テキストマイニングでの分析を行った。 データは匿名加工を行い、学生の保護への配慮を十分行った。頻出語分析で上位は、知識（89）、口腔（31）、唾液（23）、指導（22）、参加（21）、理解（20）、必要（49）、健康（10）、考える（39）、行う（17）、伝える（17）、感じる（16）、分かる（16）等であった。このことから学生は専門知識が十分身に付いていないことを実感し、口腔機能向上等に関する保健指導を実践するための専門知識習得の必要性、対象者との信頼関係の構築やアセスメントのためのコミュニケーション能力、楽しみながら対象者に分かりやすく伝える能力や工夫の必要性を感じていた。一方、運営スタッフの自由記述の頻出語分析（運営スタッフ）の上位には、思う（20）、声（13）、大きさ（13）、もう少し（12）、分かる（8）等であった。事前準備不足や対象者に配慮した媒体の文字や声の大きさ等への指摘があったが、歌や絵など対象者が楽しみながら理解を深める場となり、そのことに学生への感謝の気持ちが伝えられていた。対象者の歯や口腔の困りごと等のアセスメントをもとに口腔機能向上、口腔衛生に関する講話の計画と実施を行うなかで、学生自身の振り返りや他者のフィードバックにより課題が明らかとなった。しかしながら、本実習から学生が習得すべき専門知識や対象者に配慮した工夫を理解できたことは実践の賜物である。また、本実習は運営スタッフの支援、意見や励ましをいただき、学生が地域で見守られながら成長する機会となった。学生が学習した専門基礎科目や歯科衛生関連科目を充分生かし、教員の助言、指導等により本実習の教育効果を向上させていきたいと考える。